

小麦の収穫適期と倒伏させない栽培方法

1. 小麦のコンバイン収穫適期

コンバイン収穫適期は、成熟期の3日後から5日間

コンバイン収穫適期の小麦は、『稈に緑色が残らず、ごく一部の穂には部分的に薄い緑色が残っている、または全体的に色が抜けている。穂はわずかに湾曲し、簡単に手で脱穀ができる。穀粒は硬く若干爪跡がつく。』状態です。

コンバイン収穫適期は、出穂期と出穂期以降の気温で概ね推測することができます（表1）。例えば、小麦「さとのそら」で出穂期が4月20日、出穂期以降の気温が平年比 $\pm 0^{\circ}\text{C}$ で推移した場合、コンバイン収穫適期は6月3日～6月8日となります。ただし、表1に示すコンバイン収穫適期はあくまで目安なので、小麦の状態をよく観察して収穫適期を判断してください。

表1 小麦「さとのそら」の出穂期別のコンバイン収穫適期（令和6年4月24日予測）

出穂期 ¹⁾	予測成熟期					コンバイン収穫適期
	出穂期以降の気温が平年比 ²⁾					出穂期以降の気温が平年比
	-2°C	-1°C	$\pm 0^{\circ}\text{C}$	+1°C	+2°C	$\pm 0^{\circ}\text{C}$
4月15日	6月5日	6月1日	5月28日	5月25日	5月21日	5月31日 ~ 6月5日
4月20日	6月9日	6月4日	5月31日	5月28日	5月25日	6月3日 ~ 6月8日
4月25日	6月11日	6月6日	6月2日	5月30日	5月27日	6月5日 ~ 6月10日
4月30日	6月13日	6月8日	6月4日	6月1日	5月29日	6月7日 ~ 6月12日

1) 出穂期は40～50%の茎が出穂した日を示す。

2) 気温は古河アメダスによる。平年値は2019年～2023年の5か年の平均値を示す。

2. 倒伏させない小麦の栽培方法

倒伏が発生すると収量と品質の低下を招きます。令和6年産で倒伏した場合は、翌年産での倒伏防止に向けて、下記の内容を参考にしてください。

（1）過繁茂にしない → 適正施肥による生育制御

基肥施用量が多い場合、草丈が長く、過繁茂となりやすく、倒伏を助長します。令和6年産で倒伏した場合は減肥を検討しましょう。

裏面に続く

□ 小麦「さとのそら」の生育後期重点施肥

生育制御の方法の1つに生育後期重点施肥法という方法があります。これは、早期から適期に麦を播種した後、1月頃に基肥をブロードキャスタで施用する方法です。この方法は10月中下旬～11月中旬までの播種期で有効です。

ただし、晩播（11月下旬以降の播種）でこの方法を実施すると生育が不足するため、標準の肥培管理を行いましょう。詳細は、右のQRコードのマニュアルの7ページをご覧ください。



小麦「さとのそら」の湿害を中心とした
低収要因診断・対策マニュアル
(県農業総合センター農業研究所, 2020)

(2) 麦踏みを適切に行う → 耐倒伏性の向上

節間伸長の抑制や草丈の短縮等により耐倒伏性が向上します。麦踏みは、第3葉の抽出以降、3～4回実施しましょう（麦踏みの間隔は2週間以上）。また、麦踏みと倒伏軽減剤の組み合わせることで倒伏軽減効果が高まることが報告されています。

□ 麦踏みの実施時期別の効果

実施時期	効果
2.5葉期以降（12月 ¹⁾ ）	<ul style="list-style-type: none">霜柱による根の浮き上がり（凍上害）を防ぐ根張りを深くし、倒伏を軽減する。過剰な生育を抑える
越年後（1～2月）	<ul style="list-style-type: none">茎葉の汁液濃度を高め、耐寒性を高める。幼穂形成を遅らせ、春先の幼穂凍死を防ぐ。
莖立期 ²⁾ 直前	<ul style="list-style-type: none">莖の伸長を抑え、倒伏を軽減する。穂揃いを向上させ、成熟ムラを抑える。

1) 11月中旬播種（適期播種）の場合。2) 主稈長が2cmになる時期。

(3) 莖立期の光競合を防ぐ → 適切な条間を確保する

条間が極端に狭いと隣り合う条の麦が重なり「光競合」します（図1）。それにより莖が伸長するため、倒伏が助長されます。令和6年産で倒伏した場合は、条間を見直しましょう。

3. 収穫作業のタイミング

小麦の収穫作業は、露がつきやすい早朝、夕方、降雨後は避けましょう。高水分で収穫した小麦や倒伏等により穂発芽した小麦は、品質低下となり加工適性への影響がありますので、計画的な収穫、乾燥作業を行いましょう。

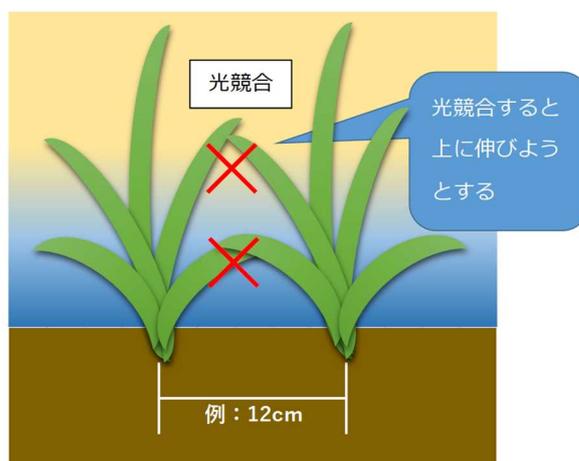


図1 狭い条間での小麦の光競合のイメージ